

酒米「山田錦」の栽培法と収量、玄米品質							
<p>[要約] 三重県における酒米「山田錦」の移植適期は、5月中～下旬である。全量有機質肥料による栽培は、慣行栽培と比較すると心白発現率が向上する。また、収穫適期は出穂後40日頃で1穂当たりの帯緑色籾数2～3粒程度が目安である。</p>							
三重県科学振興センター・農業技術センター・伊賀農業センター・栽培担当					連絡先	0595-37-0211	
部会名	水田・畑作物	専門	栽培	対象	稲類	分類	普及

#### [背景・ねらい]

酒米「山田錦」は伊賀地域で契約栽培されているが、玄米品質は他県産に比べて劣っている。また、倒伏しやすいため栽培が困難である。このため、高品質安定栽培技術の確立が求められていた。そこで、移植時期や収穫時期の違い、有機質肥料の施用が「山田錦」の品質、生育・収量等に与える影響について検討した。

#### [成果の内容・特徴]

1. 5月中下旬の移植は、6月中旬移植に比べて精玄米重が多くなり、心白発現率は向上する(表1)。
2. 有機質肥料の全量施用は、同じ窒素量の場合、収量では化学肥料施用に比べて同等かやや劣るが、心白発現率は比較的良好である(表2)。また、千粒重、粗タンパク、胴割れ、倒伏等については影響がない。
3. 1穂当たりの帯緑色籾数は、出穂後40日頃で2～3粒程度になり(図1)、籾水分が24%以下で帯緑色籾率が低下する(図2)。玄米の胴割れ率は出穂後45日で急激に増加し(図3)、籾水分が23%以下で多くなる(図4)。これらのことから総合的に判定すると、収穫適期は出穂後40日頃で、1穂当たりの帯緑色籾数が2～3粒残っている状態、籾水分が24%程度を目安とする、
4. 有機質肥料の施肥量は基肥、追肥合計で窒素成分6～7kg/10aとする。

#### [成果の活用面・留意点]

1. 酒米「山田錦」栽培法の成果は本県では伊賀地域等中山間地に適用する。
2. 収穫適期を過ぎると、有機質肥料、化学肥料に関係なく胴割れ米が増加するので注意する。

[具体的データ]

表 1 移植時期と収量・玄米品質(H8)

試験区名	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	玄米 千粒重 (g)	精玄 米重 (kg/10a)	同左 比率 (%)	粗刈 ハク (%)	心白 発現率 (%)	心白 率 (%)
早期移植(5/13)	106.1	20.1	364	28.5	666	100	5.01	68.4	48.2
中期移植(5/22)	107.4	19.5	444	28.3	688	103	5.17	60.6	43.3
後期移植(6/14)	101.0	19.0	342	27.9	482	72	5.47	46.6	31.8

表 2 有機質肥料試験の収量調査(H10) (10a 当たり)

試験区名	稈長 (cm)	穂長 (cm)	玄米 千粒 重(g)	精玄 米重 (kg/10a)	同左 比率 (%)	粗刈 ハク (%)	心白 発現率 (%)	心白 率 (%)	胴割 率 (%)	倒伏 程度
全量有機	96.3	19.3	27.7	539	99	4.97	49.7	32.3	3.9	中
基肥有機	96.7	19.2	27.7	516	95	5.00	44.8	28.5	4.5	中
追肥有機	97.3	18.5	27.6	496	92	5.36	45.7	30.1	5.3	中
慣行	96.8	18.5	27.4	542	100	4.91	40.6	26.2	4.1	中

注 1) 全量有機は基肥(N,P,K=4,4,7,2kg/10a)、追肥(3,0,3kg/10a)とも油粕を主体とした市販有機質肥料施用で2カ年連用

注 2) 慣行は基肥(N,P,K=4,4,4kg/10a)、追肥(3,0,3kg/10a)とも化成肥料施用

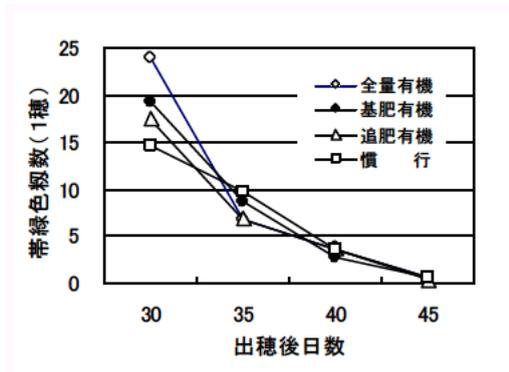


図 1 収穫期の帯緑色粒数の変化(H10)

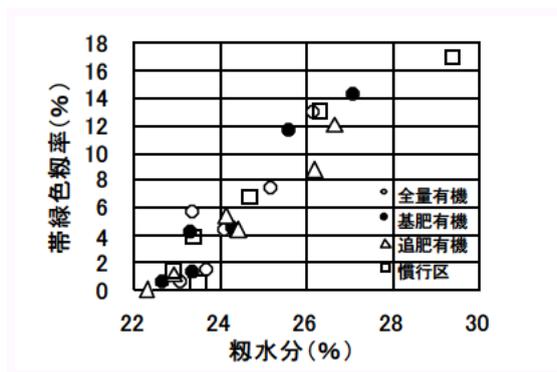


図 2 帯緑色粒率と籾水分(H10)

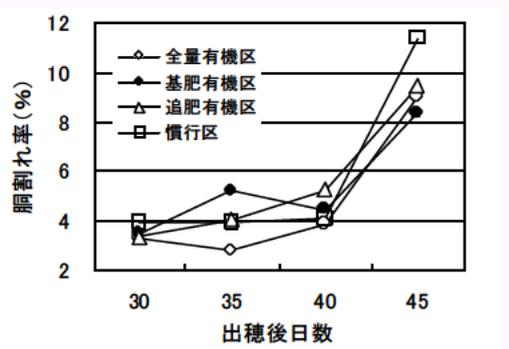


図 3 収穫期の胴割れ率の変化(H10)

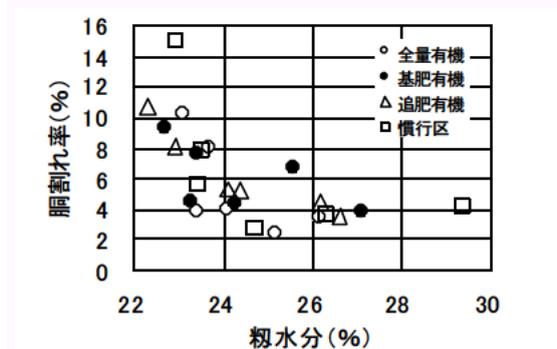


図 4 胴割れ率と籾水分(H10)

[その他]

研究課題名：酒米「山田錦」の高品質安定栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成 11 年度(平成 8～11 年)

研究担当者：安田典夫、中山幸則